



S H I M I N P H O T O

市民フォト

KAGOSHIMA

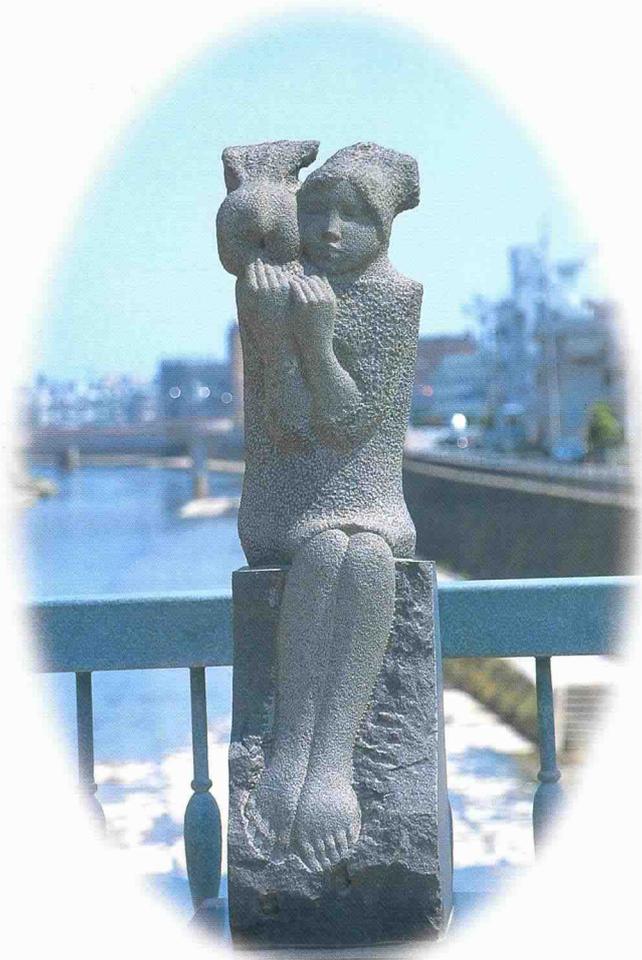
鹿児島

NO. 81

平成12年7月1日発行

屋外のオブジェ

Outdoor Objet



【ひととき】

竹 道久 作
～護国橋～

CONTENTS

【特集】健やかに育て子どもたち	3
クローズアップ	12
ハロー鹿見島	14
カメラトピックス	16
学校探訪	18
わたしの好きな場所	20
ふるさとの歴史探訪	22
あなたのフォトサロン	24
よかタイム	26
街角ウォッチング	27
市民ギャラリー	28
館のたからもの	30
わがまち上空	31

★表紙写真説明

「回った、回った！」と子どもたちの歓声があがります。

今日は市立科学館の工作教室で、かりがりプロペラを作りました。

初めて握るのこぎりに最初はこわごわ。でもちゃんと、ナイフもトンカチも使つてプロペラを完成させました。

自分で作ったという達成感からか、子どもたちの笑顔が誇らしげに見えますね。

健やかに育て かごしまの子どもたち



毎日14.8人。これは市内で生まれてくる新生児の平均の数です。

この子らがこれから幸せに、健やかに育ってほしいと、親や家族はもとより、誰もが望んでいるはず。

地域の子どもたちは、私たちみんなで育んでいこうという気持ちで、今一度必要とされているのではないのでしょうか。



学校で

んだりするなかで、自分らしさを発見していく。

クラスメイトと一緒に勉強したり、遊

地域の触れ合い の中で

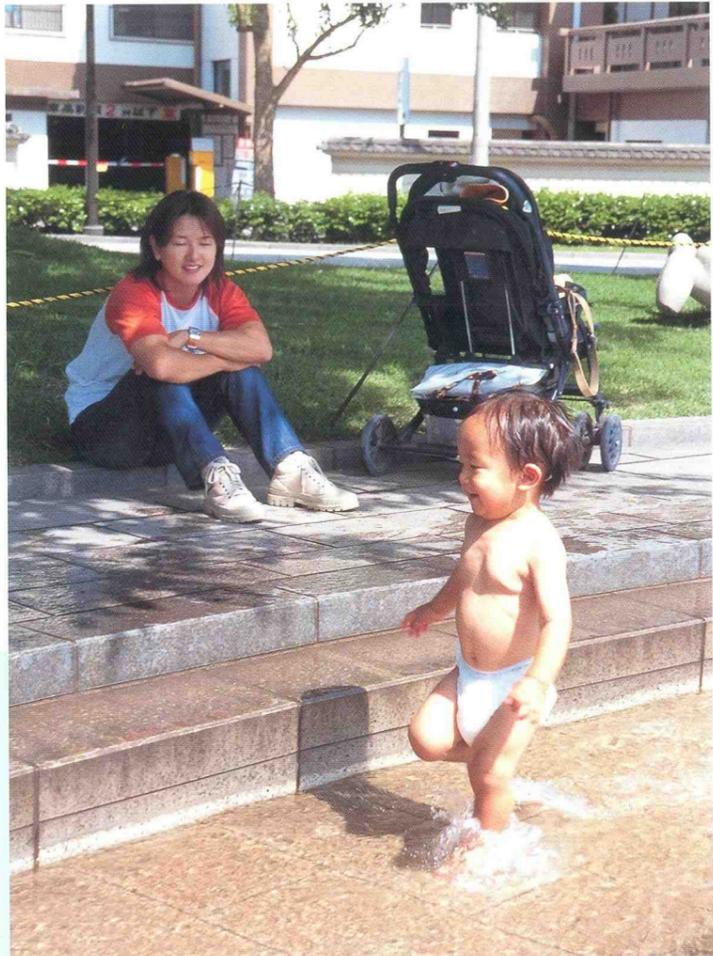
兄弟や近隣の子どもたち、異年齢の子どもとのふれあいがいたわりの心と責任感を育てる。
鹿児島ならではのあいご会で、お兄ちゃん・お姉ちゃんと一緒に行動することでたくましさも生まれる。



育む

親子

我が子の様子をあたたくく見守るお母さん。お母さん・お父さんとのスキンシップや注がれる愛情が、自分や他人を「信頼する心」を培う。

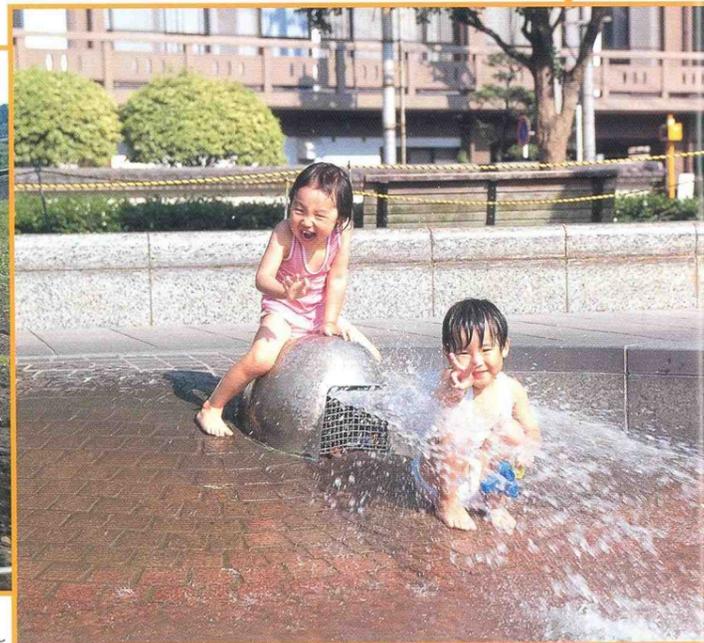




▲現代の子どもたちとテレビゲーム。
兄弟や近所の友だちと一緒に。



▼暑い日は水遊びに限る。～中央公園～



▲落花生の種を植えているんだよ。
～市立少年自然の家親子どろんこ農園～

今昔



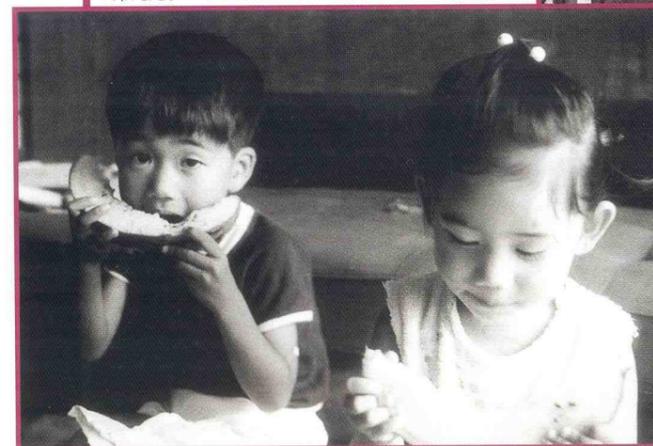
▲十五夜

今も昔も

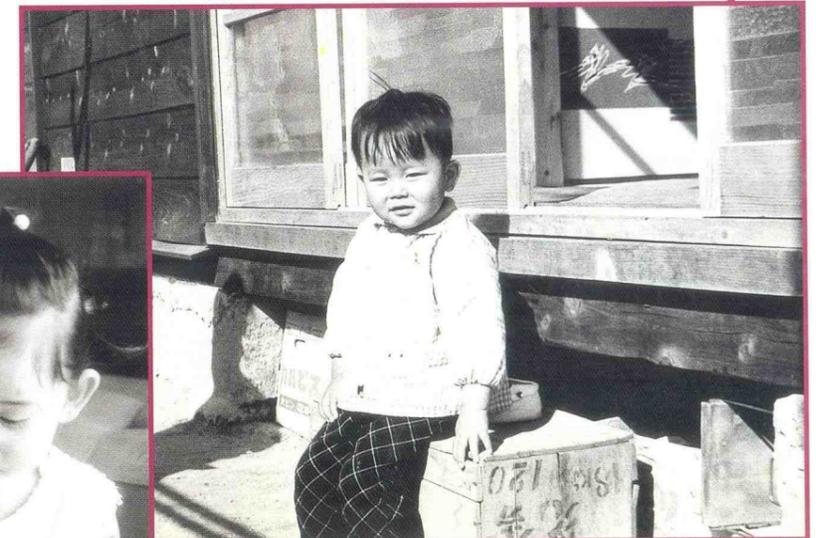
今、子どもたちの心に異変が起きていると言われている。
しかし、子どもの持つ純粋さ、可能性、そして笑顔は変わってはいない。



▼ひなたぼっこ



▼冷えたすいかがおもしろかったあの夏。



市長の子どもの頃の思い出は？



私の子どもの頃は、今と比べますと物の少ない時代でしたが、食べ物などはほとんど自然のものでした。遊びといえば仲間とともに外で走り回り、自然の中で育ちました。時には友だちと取っ組み合いのけんかをすることもありましたが、そのことでかえって友情が深まったように思います。また、家の手伝いをすませて遊びに行くものでしたね。

健やかに育て
かごしまの子どもたち
市長に聞く



母親・父親になるための準備教室
～東部保健センターにて～



鹿児島市は、
育児をしている人を
応援します。

育児をする上での不安や悩みを相談してください。

育児に関する各種教室も開催しています。必要な知識を得るだけでなく、育児をしている方が交流できる場になっています。

また、来年4月からの活動の開始に向けてファミリーサポートセンターの準備を進めています。育児の援助を受けたい人に行いたい人が会員となって、助け合って育児をしていくことができます。

この他、子育ての支援をさまざまな角度から行っていますので、ご相談ください。



地域福祉館の児童ルームで楽しく遊ぶ子どもたち
～桜ヶ丘福祉館にて～

子どもが健やかに育つために
必要なことは？

まず一つには、「愛情」でしょうね。親や家族の惜しみない無償の愛は子どもの成長に最も重要なことです。しかしながらいわゆる溺愛ではないかと思えますね。そして、近所でも地域でも、子どもたちに声をかけてあげる、また同時にきびしく注意することも必要でしょうね。

子どもたちはいろいろな人との交わりの中から自分というものを見つめ直し、自分以外の人も大切にすることが育つてくると思います。

二つめは、自分で体験して学んでいく「体験学習」です。手で触れて、心で感じたことから得られたものは、何物にも代えがたい貴重な経験です。特に自然のなかでの体験学習は「生きる」と「生き物へのいたわり」を改めて感じるのではないのでしょうか。

これから夏本番を迎えます。
市民の皆さんに一言。

夏休みは、親子で触れ合う絶好の機会です。



科学館・工作教室

市立科学館や図書館、ふるさと考古歴史館では、親子が一緒に参加できる講座を数多く準備しています。また、海づり公園や少年自然の家などでも、家族で自然が楽しめます。そして、六月灯や夏祭、おぎおんさあといった地域の季節の行事も楽しめますね。

鹿児島の夏を、家族で、仲間で満喫して、かねてできないことをたくさん経験して下さい。

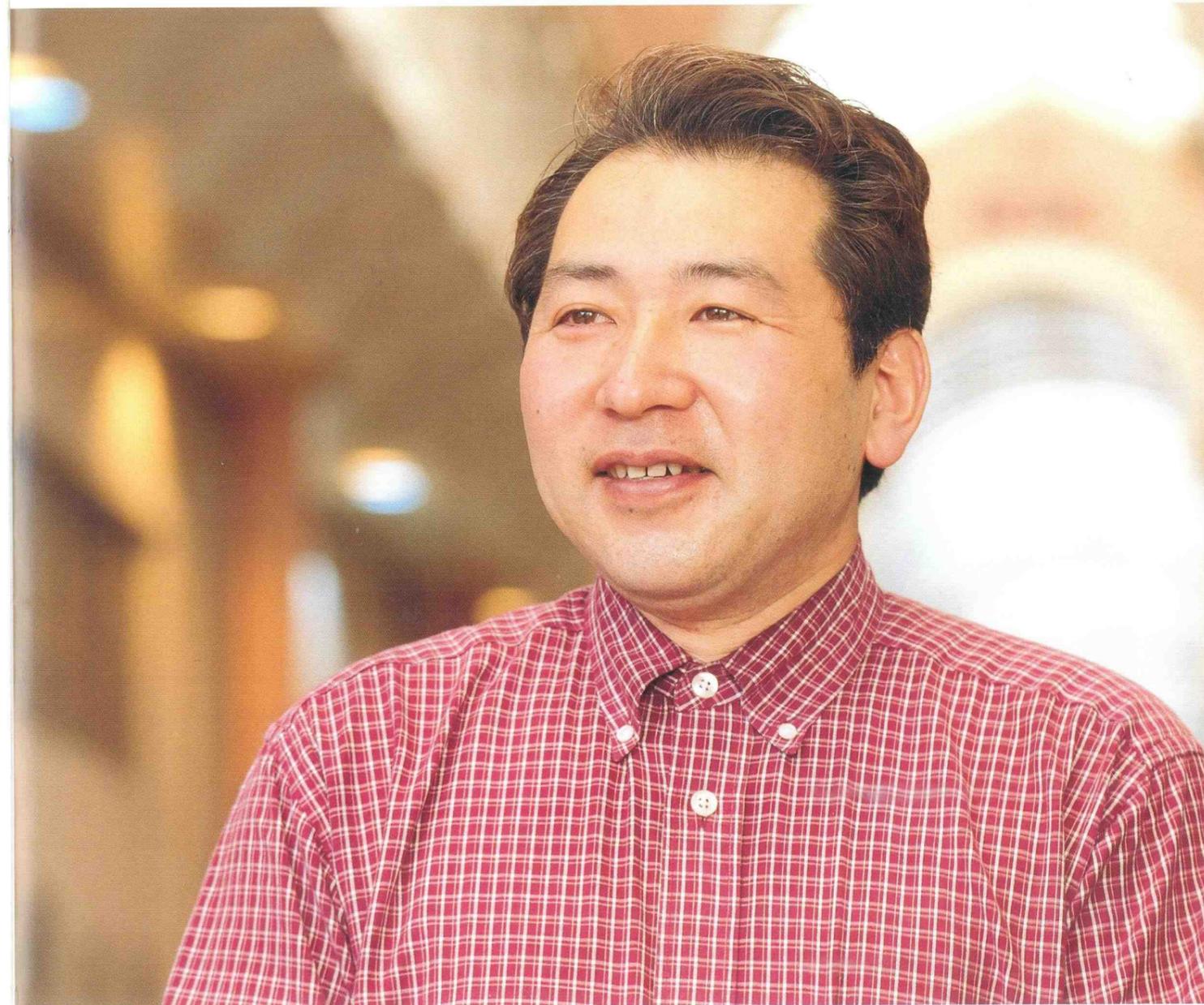
- 保健所・保健センター ☎258-2321
母親・父親になるための準備教室
育児教室
子どもの生活習慣病予防教室
すくすく親子教室
地域の公民館などでの育児相談 など
- 児童家庭課 ☎216-1258
育児・子育て相談
保育所・児童クラブへの入所
児童手当など

子どもたちの
健やかな成長のために、
みんなが支えあって
協力しあって
いきたいですね。

鹿児島島の自然と地域のふれあいのなか
豊かに伸びやかに育ってほしい



天文館を思う気持ちは人一倍 ~お祭り好きの若旦那~



牧野繁さん ホームページ『天文館どっどこむ』制作者代表

昭和30年 鹿児島市に生まれる
平成2年 雑貨店経営
平成12年 『天文館どっどこむ』を開設

『天文館どっどこむ』 <http://www.tenmonkan.com>

今年四月一日、インターネット上に、天文館の情報を満載したホームページ『天文館どっどこむ』が登場した。

「商店街を総合的に紹介するホームページは、全国でもまだ珍しい。『天文館どっどこむ』をつくることで、まちをPRし、もっと多くの人に足を運んでもらいたかったんです」開設者の一人、牧野繁さんはそう語る。

天文館を一つにしたい

ホームページの参加店舗数は、約五百件。一件一件お店を訪ねて、開設に協力してもらった。最初の反響はまずまずのもの。現在も一日に数百件のアクセスがある。

「低コストで情報を流せるのが、インターネットの便利なところ。その反面、見てもらわなければ全く意味がないし、内容がつまらなければすぐ飽きられる。そうならないために、魅力的な新しい情報をどんどん入れるように努力しています」

「天文館がこれからの時代を生き抜くためには、一つにまとまって協力していくことが大切。それを実現するために、このホームページで実績をつくっているんです」

みこしはやめられない

牧野さんが最も輝いているのが、みこしをかついでいる時だ。

「理由は分からないけど、祭りにはとても惹かれます。一度みこしの上に乗ったら、もうやめられないですよ」

『おぎおんさあ』にも、十五年くらい参加している。祭りの前になると、自然と気合が入るそう。みこしかつぎに合う体になるために、仲間と一緒に磯の浜辺で体を黒々とや。髪の毛も刈るつもりだ。

「この祭りは、江戸時代のころからあるそうですね。今はだんだんすたれていっています。昔からの伝統行事として、もっと盛り上げて、次の世代に引き継ぎたいです」娘さん二人も、みこしかつぎに興味を持ち始めた。

これからが本番

「私にとっては、ホームページもお祭りも後先考えずに前に進むことでは同じです」その勢いが天文館を結びつける流れになる。

「地元の結びつきが深ければ、まちが発展していく。天文館をお互いの顔が見えるまちにしたいですね」

天文館を思う情熱は人一倍。ホームページの運営も今始まったばかり。牧野さんの活動はこれからが本番だ。

桜島と錦江湾に 心を洗われる日々



国際交流アドバイザーとして 鹿児島へ

タニヤ・ガンさんは、鹿児島市の姉妹都市オーストラリア・パース市の出身。鹿児島に来る前は銀行で働くかたわら、大学で国際ビジネスとアジア研究を専攻。日本語や日本文化はそのとき学んだ。そもそも日本に興味を持ったのは6年前、高校生のときの東京ホームステイにさかのぼる。昨年の6月に大学を卒業して、7月に鹿児島にやってきました。現在、国際交流アドバイザーとして働く。

鹿児島が姉妹都市であること、桜島という活火山があることは知っていたが、「あらためて調べたら、私の大好きな魚がおいしくて、温泉があちこちにある、ということがわかって、鹿児島行きが楽しみになったんですよ」と流ちょうな日本語で話してくれた。

すばらしい桜島と錦江湾

鹿児島で最も印象的なのは、何といっても桜島と錦江湾だと彼女は言う。

「市の前面に錦江湾とそこに浮かぶ桜島があり、市内のどこからでも見える。すばらしい景観だと思います。また、市内いたるところで見られる花や緑は本当にきれいですね」美しいパースの景観をかたちづけているスワン川。錦江湾はまさにパースのスワン川のようにだとタニヤさん。

「この景観は確かにすばらしいものですが、その景観を生かして、市民が楽しく過ごせるような施設がもっとあればいいですね」

仕事での戸惑い

「パースも鹿児島ものんびりしているところは似ている」と語る彼女であるが、いざ仕事に取り組んでみると、意識の違いに少なからず驚きを感じる日々。

「何かを企画するときに、詳細を決めて、構想して、動いている。考えもしなかったところまで考えが及んでいて、行き届いている」

豪日の架け橋に

翻訳、通訳、学校訪問、講演、市民との交流、パースの紹介と、忙しいながらも充実した毎日を送っている。

「今の生活を楽しんでいます。鹿児島の国際交流のお手伝いに力を注ぎたい」満足そうな表情を浮かべ、続けた。

「しばらくは鹿児島で仕事をしたいと思っています。そして、将来は日本語と今の経験を生かして、オーストラリアと日本の架け橋になる仕事をしたいですね」

タニヤ・ガンさん (オーストラリア連邦)

HELLO
KAGOSHIMA
ハロー鹿児島

もっと知りたい あの国この国

オーストラリア連邦

広大な国土を持つ、多民族・多文化の移民国家

【あらまし】面積約768万kmは、日本の約20倍。人口1875万人は、逆に日本の約1/7。1770年に英国人クックが上陸、英国領を宣言。1901年、オーストラリア連邦を樹立した。これまで、世界各地から500万人近い移民を受け入れてきた。
【言語・文字】英語が公用語。
【食】移民国家のオーストラリアでは、いろいろな国の料理を食べることができる。漁業と牧畜業が盛んなため、魚介類も牛肉や羊肉も安くおいしい。夏はバーベキューを楽しむことも多い。
【パース市】ダーリング山脈から流れ落ちる、水量豊かなスワン川に臨む。人口約122万人を擁する西オーストラリア州の大都市。アジア諸国と近いため、アジア系の移民を多く見かける。発展著しく、現在も人口は増加している。

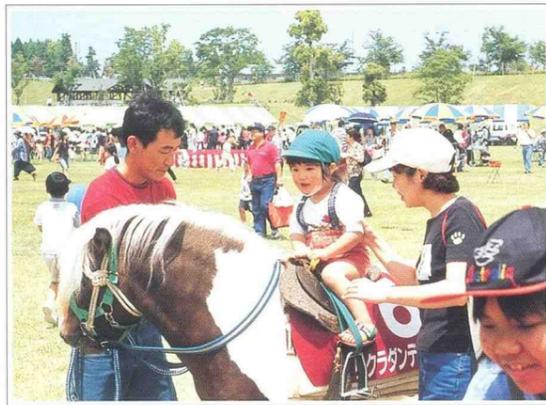


オーストラリア弁を紹介しましょう

- G'day mate/How ya going こんにちは・元気ですか
- Catch ya later/Toodle oo さようなら
- True blue/Fair dinkum 本当です・本物です
- Stone the crows/Crikey ビックリしました!



▲明るい雰囲気職場で仕事に取り組む



5月21日 畜産フェスタ
都市農業センターでの好評のイベントに今年もたくさんの家族連れなどが訪れました。



5月12日 防災点検
雨期を前に、桜島班と市街地班に分かれて災害危険個所の点検を入念に行いました。



古里公園、寺山ふれあい公園オープン
古里公園(古里町)と寺山ふれあい公園(吉野町)、広木公園(田上町)が相次いでオープンしました。



ばら園(錦江湾公園)



5月25日 薩摩義士顕徳慰霊祭
木曾川治水工事の偉業を成した薩摩義士たち。今年も岐阜県大垣市からの多数の参加がありました。



4月17日 市議会議員当選証書付与式
選挙管理委員会委員長から当選証書が渡され、新議員50人が誕生しました。



6月1日 水道応急・維持管理センター開所
災害時の水道の応急復旧と応急給水活動の拠点が完成しました。



(災害時に心強いウォーター・パッカー)



5月26日 魚霊祭
魚類市場関係者などが参加して魚の供養と市場の発展・安全を祈願しました。



花しょうぶ(平川動物公園)



5月8日 コアラプログラム代表者市長表敬
平川動物公園のコアラが国際交流の架け橋に。インターナショナル・コアラ・プログラムの代表者が市役所を訪れ、アメリカの動物園へコアラ2頭を寄贈することになりました。

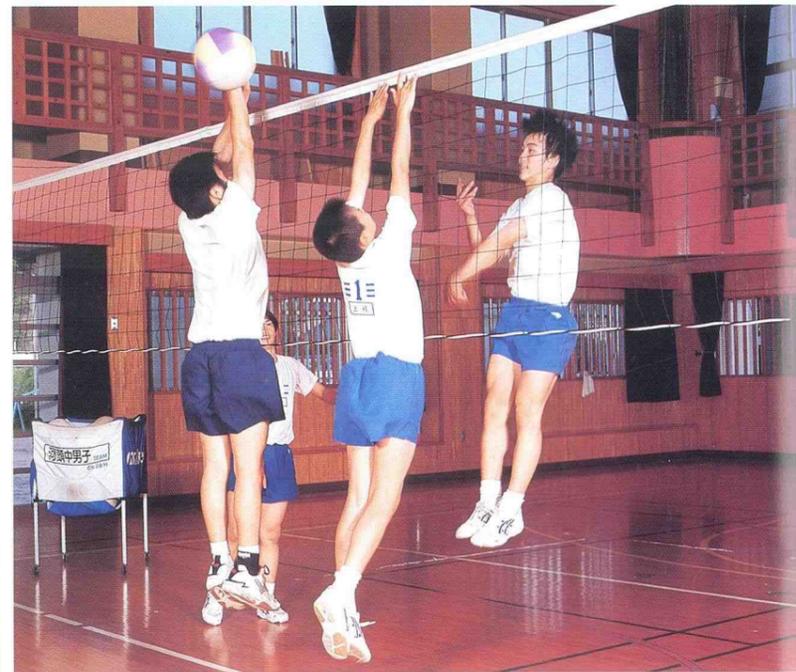


5月10日 第10回一徳場児童文学賞授賞式
みおちづる氏の「ナシスの塔の物語」が受賞しました。



4月23日 第3回渋谷・鹿児島おはら祭
にぎやかなおはら節に熱気あふれる踊り連。東京・渋谷のまちが鹿児島一色になりました。

仲間とともに
「気品と知性」を
磨き高め合う



甲突川のほとり、緑の山に囲まれて

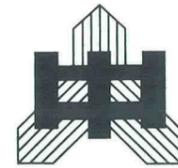


河頭中学校

創立 昭和22年 生徒数 177人 (平成12年6月1日現在)



豊かな自然が題材に



生徒の安全を見守る



みんな帰ろう

河頭中学校のいいところは、緑の山々にかこまれて景色がいのと、クラスで協力して物事が行えるところだと思います。

2年 長友 裕太さん

豊かな自然に囲まれ、生徒同士が仲良く、伸び伸びと勉強や部活動に積極的に取り組むところが自慢です。

2年 高竿 あゆみさん

緑に囲まれ、生徒の元気な声が飛び交って、部活動も楽しく過ごしています。

3年 吉村 徹さん

みんなもだけど、部活動生は特に先生やお客さまに元気良くあいさつするところがいいと思います。

3年 有村 奈保子さん

最近、部活動が盛んになってきています。自主練習をし、今までの歴史をぬりかえるような成績を残そうと頑張っています。

3年 新山 哲生さん

周りには、山や甲突川があって、とても環境が良く、晴れた日は、とても気持ちがいいです。

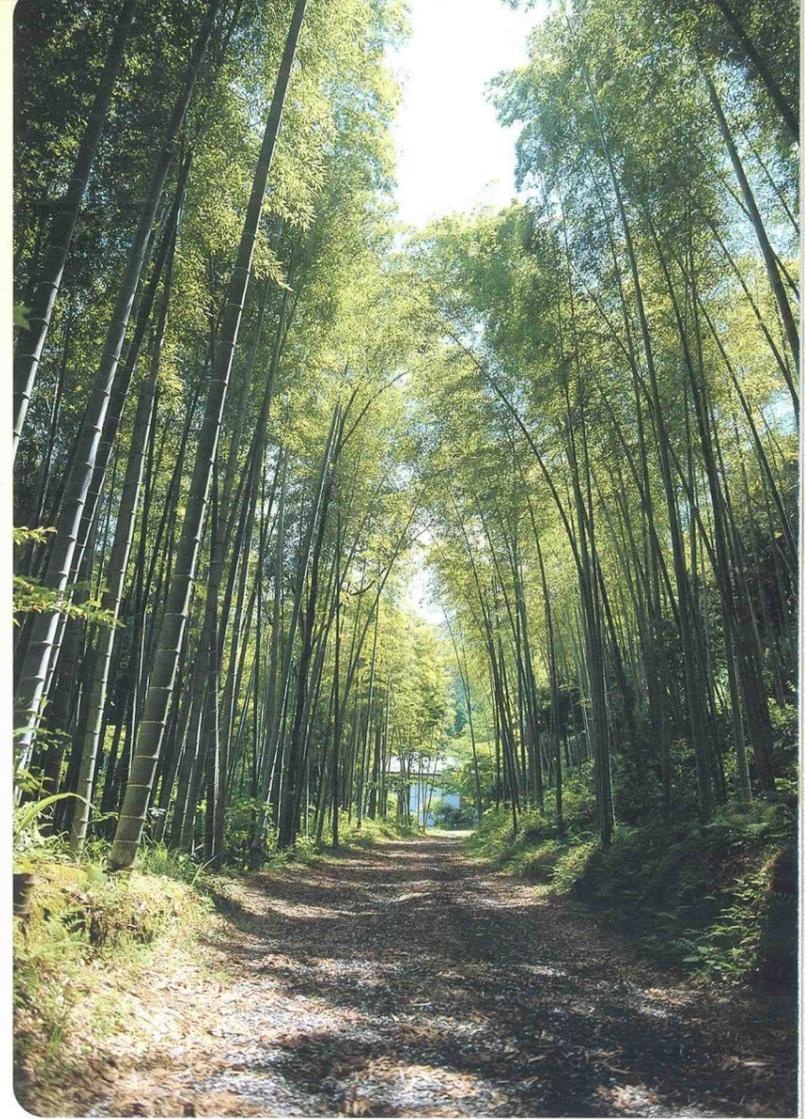
3年 上宇都 美千代さん

河頭中学校は、周りを緑に囲まれた自然いっぱい学校です。全校生徒177人と人数は少ないですが、その分生徒達がとても仲良く、文化祭や体育大会などみんなが協力しあって、とても楽しくスムーズに行うことができます。

これからも生徒一人ひとりが手を取り合いながら、いろいろな学校行事などを成功させていきたいと思えます。

生徒会長 床次 隼朋さん

野頭の何気ない自然が心を癒してくれる

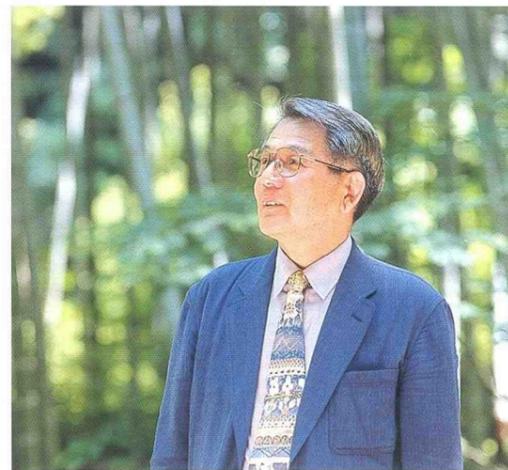


志學館大学教授

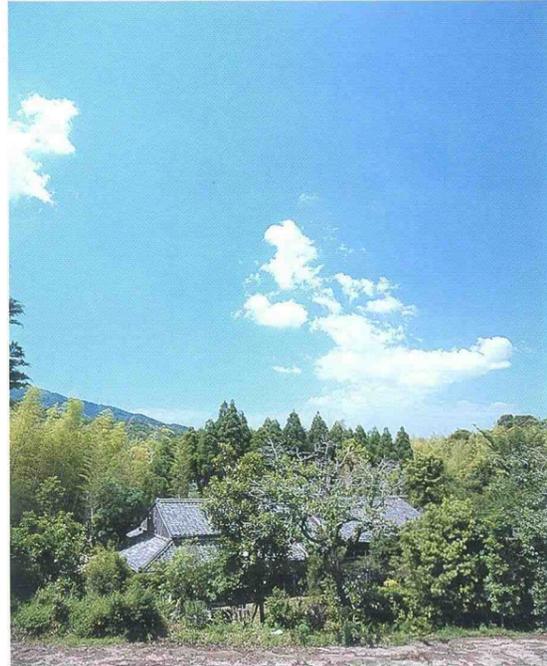
十島 雍蔵さん

下福元町・野頭

野頭で一番最初に来たところは、児玉美術館なんです。女房とよく美術館巡りはするんですよ。美術館だけでなく、周りの風景も素晴らしいですね。ここに来る途中に杉林、竹林があったり、今日は鶯が鳴いています。谷川はいい音で流れていますし、いいですね。梅林があって、向こうには栗林が続いているんですよ。緑というのは、命あふれる色です。何か生気を感じますよ。



私の好きな場所
My favorite Place



この辺りは、何も考えないでぼんやりと歩くのが一番いいんじゃないですか。変にこんな所で、今度のエッセイは何を書こうか、なんて考えないことにしています。

いつだったかはよく覚えていませんが、まだ私も若かったと思います。栗林が続く散策する道があって、その傍らのベンチに上品な老夫婦が座っていて、何か二人で話しながら、周りの景色を眺めておられる。風景にしっかりと溶け込んで、とても素敵でした。「僕たちもあんなりたいね」と女房と話したことが忘れられません。

とっても静かで穏やかで、墨絵みたいでした。その時はちょっと嫌な気分だったのかな。「寂静」という言葉がふっと浮かんで、ああ穏やかに生きたいなあと思いました。

ここは秋もいいですよ。赤い柿があちこちになつてる風景は、まさに「里」です。夕暮れになってきて、点在する家々に灯がポツン、ポツンとつく、そんな風景に、何かからないけれども胸がキュンとするんです。

随分以前から野頭に通っていました。が、何度来てもそんな気持ちになって、この辺に住みたいという気持ちが募ってきました。

子育ての時期は上荒田に住んでいました。コンクリートのアパートに20年くらい。今はもう老年期に入りましたけれども、「思秋期」が一番つらかったですね。40歳代から50歳代の頃ですよ。マラソンでいったらちよと折り返し地点のあたりですよ。

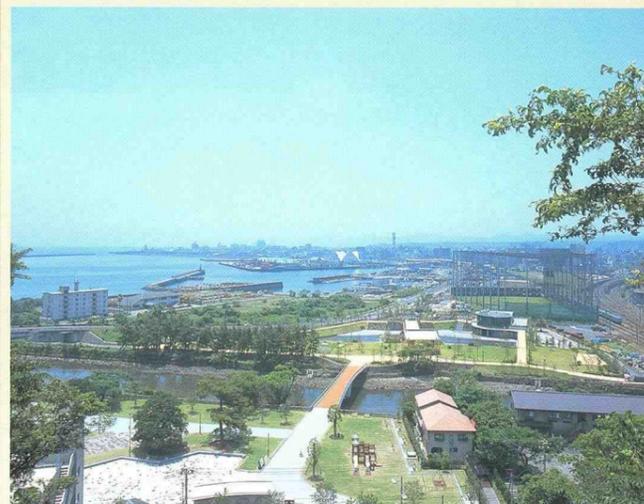
人間が人間のなかで生きていくというのは、そうしか生きようがないのに、とてもきついことです。人間は孤独じゃ生きていけません。でも、人と関わろうとすると、どうしても嫌なことがありますよ。そんな時、ふっと人から離れて自然のなかに一人だけ身を置いてみる、あるいは妻と二人で、静かに。言葉はいらないですよ。心を癒す。そういうひと時が大切なんだと思います。

◆取材メモ

笑顔と穏やかな語り口。緑の中の歩きながらの取材は、時間を忘れさせてくれた。

心理学徒として40年余り、鹿児島大学退職後も教壇に立つ。また、長年にわたり、障害者とともに福祉の世界で活動。現在も知的障害者更生施設「きずな学園」理事長など公職を務める。

人間の生き方や心の在り様に対する考察はこれからも続く。



多賀山から見る祇園之洲 (明治5年㊦と現在)

稲荷川河口の歴史



文 宮下 満郎

Misurou Miyashita

昭和30年熊本大学史学科卒業。鶴丸高校、甲南高校教諭のほか県維新史料編さん所に勤務する。平成6年から10年まで維新ふさと館歴史解説員。現在、市文化財審議会委員、県史料刊行委員。

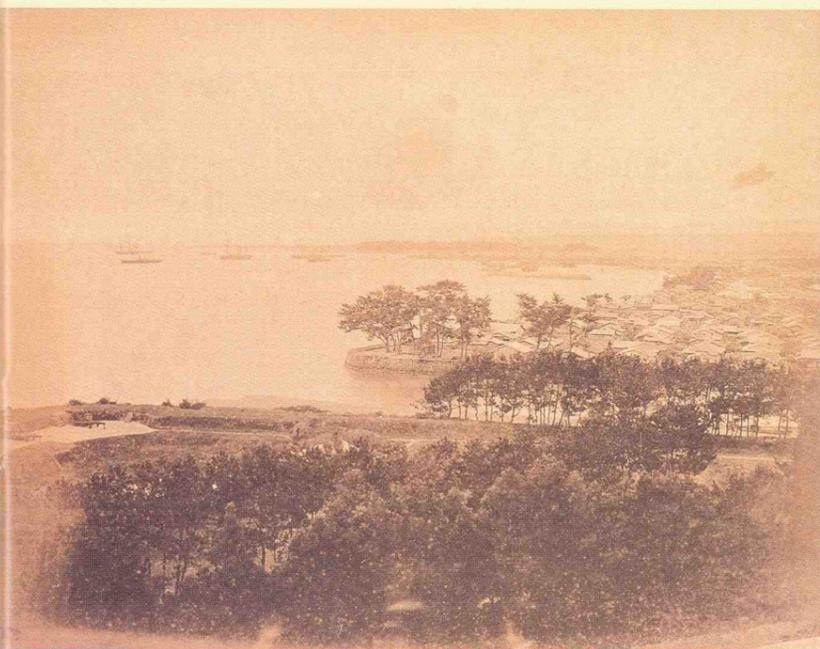
多賀山の史跡

多賀山は吉野台地の一端が南に延びた所にあり、先端は断崖になっています。中世の山城には絶好の場所です。この地に長谷場氏が東福寺城を築いたことから歴史に登場しました。一帯の史跡に東福寺城跡の碑、肝付兼重奮戦碑などがあります。東洋のネルソンといわれた海軍元帥東郷平八郎の遺髪を納めた墓と銅像も、薩英戦争が行われた錦江湾を見下ろすこの地にあります。

築地と三五郎の石橋

鹿児島城(鶴丸城)は背後に城山が、前には海が迫っていて、城下の海岸には高さ約七メートル、長さは一キロメートルにおよぶ石垣が築かれていました。そして、江戸時代の初めごろに、土地を拓けるために石垣の沖が埋め立てられました。これが今の易居町の一部で、当時は築島と呼ばれていました。

そしてその北隣、すなわち西田橋が移設された稲荷川右岸の上築地は、元禄十四年(一七〇一年)に埋め立てが始まりました。城前の築島から稲荷川までの造成です。琉球船など大きな船は、満潮を利用して祇園社脇の多賀山の木に繋いでいたそうですが、埋め立て後は旧海岸線沿いの行屋堀は小船の、孝行橋から下流は大船の船だまりになりました。



尚古集成館蔵

ところで、城下から磯のお茶屋へ行くには、戸柱橋を渡って、急坂の鳥越坂を越えていましたが、島津吉貴が磯別邸に住むようになった享保年間(一七二〇年代)には、海岸沿いの新道ができました。

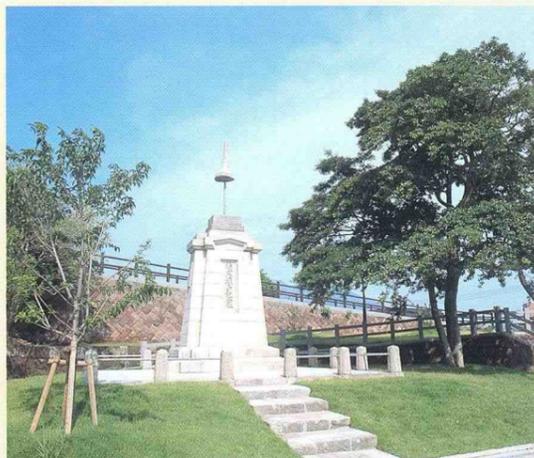
また、鹿児島には古くから吉野実方橋で知られた石の大鼓橋がありました。天保十一年(一八四〇年)に架けられた行屋堀の五石橋は、西田橋などの架橋で有名な岩永三五郎以前の架橋と考えられます。

天保十三年(一八四二年)、三五郎が鹿児島で最初に架けた橋は、抱真橋を改築した三連の永安橋です。当時の欄干の親柱は祇園之洲公園にあります。三五郎はその後稲荷川の上流に、大乘院橋など五橋を架け、弘化二年(一八四五年)から甲突川諸橋の架橋にかかりました。

玉江橋や高麗橋が移設された祇園之洲公園
この一帯は鹿児島市が発展する核になった場所
稲荷川河口には鹿児島の歴史がつまっています



▲祇園之洲砲台跡



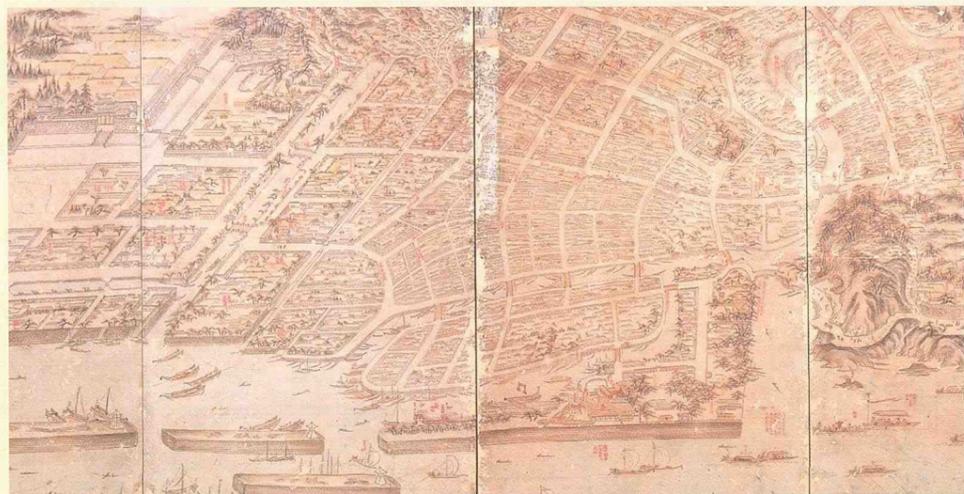
▲薩英戦争記念碑

祇園之洲公園

永安橋を架ける前に稲荷川の川ざらいをして、さらった土砂を積み上げたのが祇園之洲です。祇園之洲には、嘉永六年(一八五三年)島津斉彬が砲台を築造します。砲台が実戦に使われた薩英戦争で守備兵は奮戦しましたが、砲台はイギリス艦隊の集中砲火を浴びて破壊されました。公園には旧薩摩藩砲台跡と薩英戦争記念碑があります。

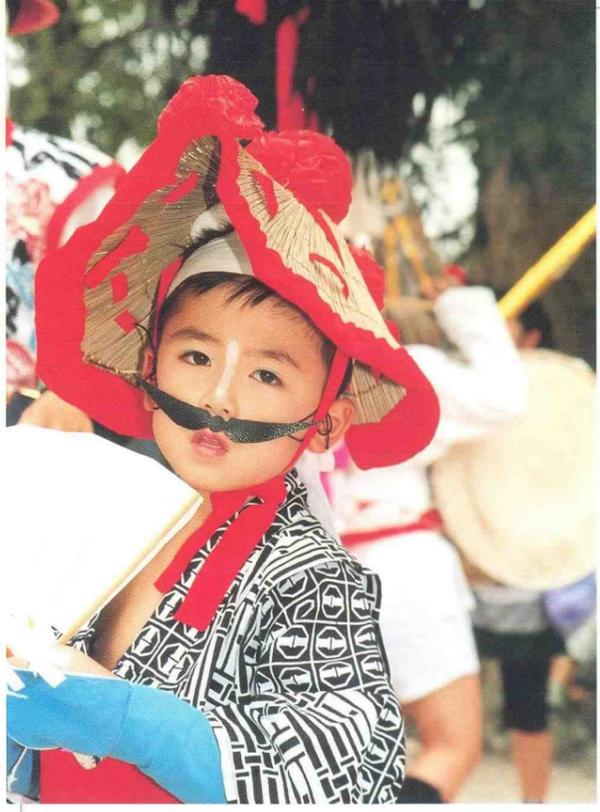
明治三十年代(一九〇〇年ごろ)以降、稲荷川河口右岸は鉄道の開通と鹿児島港の改修で一変しました。一方、左岸の祇園之洲は西南戦争後官軍戦没者墓地でしたが、昭和三十年(一九五五年)納骨堂に改修され、現在は西南の役戦没者慰霊塔が建っています。この間昭和三十九年(一九六四年)には一帯

が都市公園となり、さらには今回の石橋の移設を機に、両岸とも公園として整備されました。



▲天保年間城下絵図(部分)

市立美術館蔵

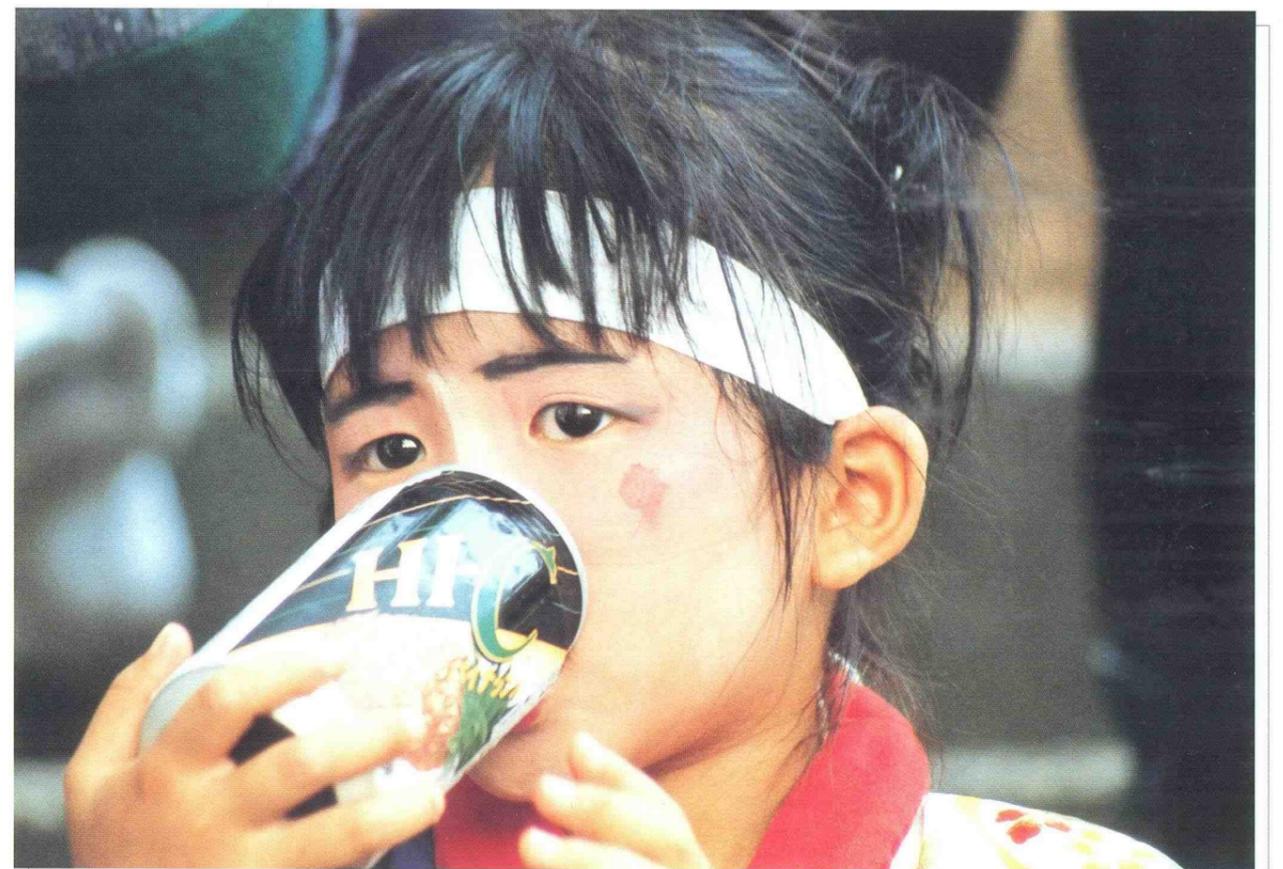


あなたの Your Phot Salon
フォトサロン

「祭の子」

写真 中山 秀雄さん

子供の無邪気さに魅かれて撮りました。
素直さを何時までも忘れないで。



太極拳
福岩 寛之さん



よかタイム
5つの質問

Q1 太極拳を始めたときの感想は？

ハードです。ゆっくりした動作が意外ときついです。速さでごまかすことができないので…。

Q2 太極拳の基本は？

すべて下半身が基本です。木と同じです。安定感ができてきて、心も自然と落ち着きます。

Q3 「気」を感じられますか？

まだ経験が浅いので分かりませんが、生きているというか、動いているという、その流れを感じます。「体を練る」という感じですかね。難しいですね。

Q4 長年されている方の印象は？

見ている動きが常に安定しています。それと皆さん穏やかですよ。年配の方が多いからかもしれません。(笑)。

Q5 福岩さんにとっての太極拳とは？

考え方や体、仕事の面で、より自分を高められる一つの方法だと思っています。



▲老若男女、多くの仲間とともに

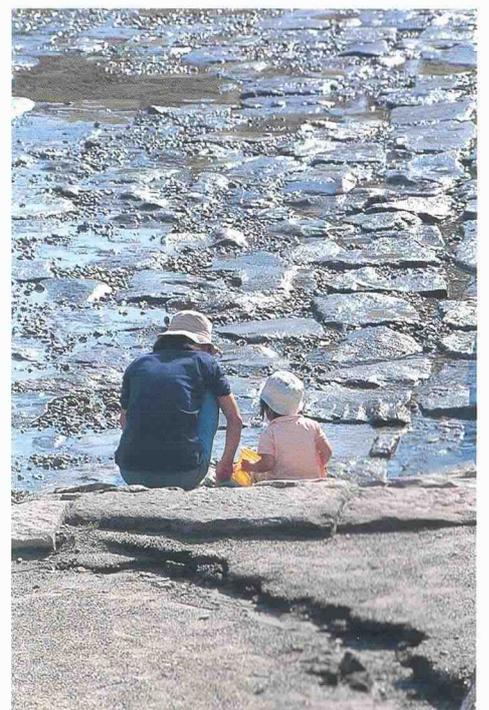
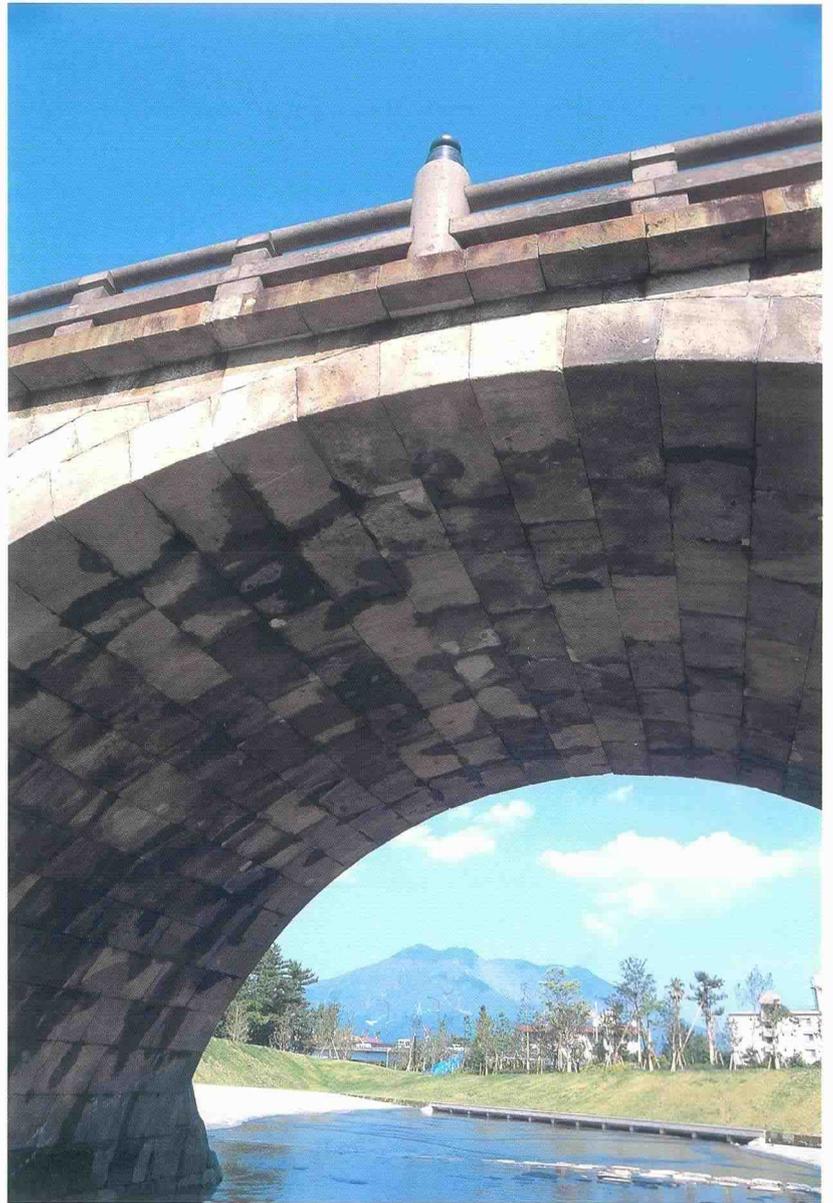
太極拳を始めて1年。「やればやるほど、さらにその先がある。」と魅力を話していただきました。何か遠くに人生の大きな宝物を見つけたようです。

街角

ウォッチング

～石橋記念公園～

(浜町)



パッチワーク



鶴森 利江美さん



小森園 貴子さん



安楽 佳子さん

それぞれの家から古い布を持ち寄り、丁寧に縫い合わせていくと、色とりどりの作品ができあがります。
「パッチワークだけではなく、皆さんといろんな話をします…人生の勉強にもなりますね」と代表の鶴森さん。
一針一針に、皆さんの思いが込められています。



東 真知子さん



大河平 加代子さん



堀 洋子さん

お花の会

花が大好きな仲間が集った「お花の会」。
「楽しく、仲良くお花の技術を高めることができそうです」と会員の皆さん。
最も美しく花を生かしてあげるには…。花に向かい合う時の皆さんの目は温かく、そして真剣です。
可憐な花の美を、どうぞお楽しみください。



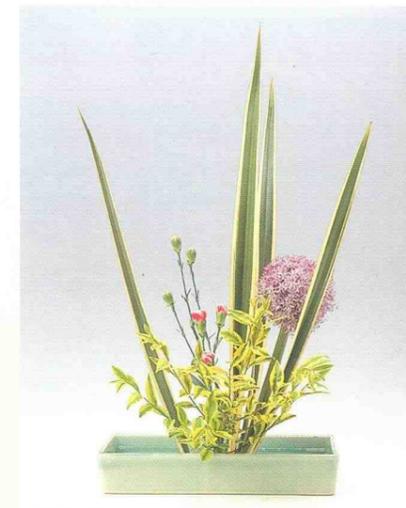
■ジューンブライド 濱田 裕子さん



■初夏の花道 清水 昭子さん



■五月晴 丸野 桂子さん



■五月の候 山内 宏治さん



■五月雨 原田 久美子さん

館のたからもの

かごしま メルヘン館

オートマタ（西洋からくり人形）



「椅子乗り」(写真右)は、19世紀のフランスで活躍したオートマタ職人・ヴィシーの作品を、現代のプロの修復師でオートマタ研究家でもあるクリスチャン・ベリーが忠実に復元したものです。

1900年ごろの古い布を用いて服を作るなど、当時の雰囲気が出ている完成度の高い作品といわれています。

「ハープ弾き」(写真左)は、1880年ごろ、フランスの有名なオートマタ工房の一つ、ジャンルーレ&デカンプ工房で作られた作品です。衣装も全てオリジナルです。

ぜんまいを巻くと、曲に合わせて片手で椅子に乗る曲芸をしたり、ハープを奏でます。その動きはとてもリアルで、まるで生きているかのようです。

2体のオートマタ。普段は人形ケース

の横にあるモニターで動く様子を見ることができます。こどもの日や文化の日、イベントなどの際には実演を行うこともありますのでお楽しみに。

●オートマタ（西洋からくり人形）

人形を動かしてみたい…という思いは古くからあったようで起源は実に紀元前のギリシア時代までさかのぼります。

その後、18世紀のヨーロッパで、オルゴールとバネ、ぜんまいが発明されたことにより、音楽に合わせて人形を自動で動かすことに成功しました。

特に19世紀のパリには、優れたオートマタ製作者が集まり、後世に残る、数々の傑作を残しています。

(かごしまメルヘン館学芸員 久保田里花)

わが町

上空散歩

Wagamachi Jo-ku-sanpo



■小原町上空から

写真右、縦方向に伸びているのはJRの線路。そして、左上に連立する建物群は大学病院です。そこから下に目を転じると、法面がご覧になれるように傾斜地の多いところがあります。

中央部には東谷山中学校（上）と、隣接して東谷山小学校（下）が見えます。

その右に広がる緑地は地域の人々の憩いの場になっています。

また、写真右下に、高架になっている道路は笹貫バイパスです。

編集発行／鹿児島市広報課

鹿児島市山下町11の1

電話 216-11133

印刷・レイアウト／渚上印刷(株)

